

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I、II、III、IV、V 】
2 実施対象者	学 校 名：岐阜県高山市立中山中学校 対象学年：本校職員と全校生徒 約500名 地域の方：約100名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（道徳、保健体育、総合的な学習の時間） ② 行事名（修学旅行〈3年生〉） ③ その他（大前光市氏講演会） (2) 地域における活動 ① イベント名（地域運動会） ② その他（職場体験学習）
4 目 標 (ねらい)	(1) 総合的な学習や学校行事、部活動などにおいて、オリンピック競技について学習する機会をもち、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学ぶ。 (2) 生徒会活動や校外活動で、ボランティア活動参加の呼びかけを行い、ボランティア活動を通して、マナーやおもてなしの心を学ぶ。（あいさつ運動、資源リサイクル運動） (3) 修学旅行での講話（パラリンピック・バスケットボール代表・藤本選手）を聞いたり、パラリンピック施設を見学したりして共生社会について学ぶ。（3年生） (4) 地域の伝統活動である「中山立志太鼓」を、地域の方の指導のもと練習することを通して、郷土の文化を学ぶ。 (5) 部活動をはじめ、マラソンや駅伝などの校外行事に、積極的に参加をすることで、多様なスポーツに関心をもつことができる。
5 取組内容	(1) これまでに行ってきた中山中の行事や活動を、オリンピック・パラリンピック教育に（意図的に）つなげながら進めていく。 (2) 郷土教育主任兼総合的な学習主任が中心になって進め、生徒会や立志太鼓と連携しながら生徒に広げていく。 (3) 「公正・公平」を重点として位置付けた道徳の授業実践。 (4) 保健体育「スポーツの取組・オリ、パラの理解」の授業実践。 (5) 体力づくりプロジェクト「ラジオ体操（夏休み）」への参加 (6) H30 中山中体育大会をオリンピック色に絡めたものにする。 (7) 「チャレンジスポーツin ぎふ」参加を通して8の字跳びに挑戦 (8) 藤本怜央氏講演会、大前光市氏講演会の参観

	<p>(9)「総合的な学習の時間」による学習成果発表会</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">藤本中央氏講演会 (チェアラグビー)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">大前光市氏講演会 (義足のダンサー)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">学習成果発表会で発表している様子</div> </div>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 保健体育では運動やスポーツについて、総合的な学習の時間ではオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関することについて学ぶことができ、スポーツへの価値観が広がった。</p> <p>(2) あいさつ運動や、資源リサイクル運動に参加することで、マナーとおもてなしの心が育成された。</p> <p>(3) 大前光市氏の講演会を参観することで、片足になってもダンスを続けるという強い意志と、インクルーシブな社会(共生社会)への意識が高まった。</p> <p>(4) 本校の伝統である立志太鼓の練習を熱心に行い、地域の運動会のオープニングで披露することで、和楽器への関心、地域へ貢献する態度が育成された。</p> <p>(5) 保健体育や体育大会を通して、スポーツに対する興味・関心が向上し、スポーツを楽しむ心が育成された。</p> <p>(6) 「する」「みる」「支える」スポーツがあることに気づくことができた。</p> <p>※何よりも、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への興味がわき、関心がもてたことが一番の成果である。選手としての参加はなかなか難しいが、「観て応援する」「ボランティア等で支える」ことへの意識が高まった。また、外国人観光客の増加に伴って多様化社会への理解も深めていく必要性を感じたことは成果である。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>(1) 学校だけの学びではなく、修学旅行で東京に赴き、実際に自分の目で建設中の競技会場や選手村等の視察とインタビューを行うこと。</p> <p>(2) パラリンピック・バスケットボール代表の藤本氏の講演や、大前光市氏(しながわ2020スポーツ大使)の講演を聞くことで、本物に出会い、さらに実感を深めること。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) 総合的な学習の時間や、他教科との横断的な学習を確実に位置づけて継続していけば、さらに興味・関心が深まると考える。</p> <p>(2) 3年生が修学旅行で学んできたことを、1、2年生にしっかりと伝達する機会を設ければ、興味・関心が高まり、理解も深まると考える。</p> <p>(3) 全教職員が、オリンピック・パラリンピック教育について共通理解をして実践を進めていくために、研修や協力体制を整備し、計画的、継続的な取組にしていく必要がある。</p> <p>(4) 講演会等を開催するにあたって、予算の確保が大変難しい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>3年生の修学旅行は来年度も東京方面へ行くので、建設中の競技会場や選手村等の視察とインタビューを通して、実際に自分の目で見ることを継続して行う。また、実際にオリンピック選手、パラリンピック選手を招いての講演会も計画している。</p> <p>しかし、予算面の確保が困難なので、学校での講演会開催は未定である。</p>